

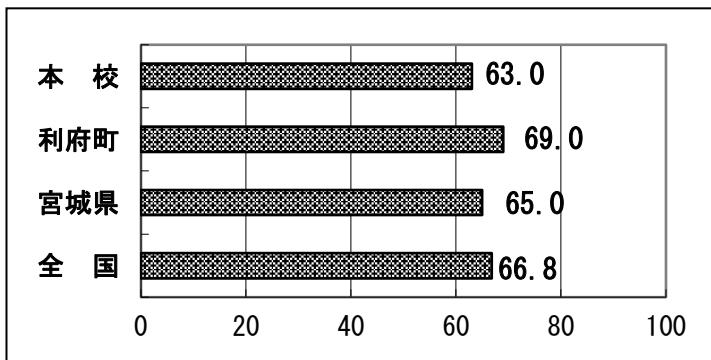
令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

4月に全国の国・公・私立小学校に通う6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果が各校に7月末に届きました。これに基づいて、この度、本校の児童の学習や生活の状況について、よさや課題についてまとめましたので、お知らせいたします。

なお、個人票もあわせてお渡しいたしますのでお読みいただき、お子さまのこれからの学習と生活の改善に役立てていただきますようお願い申し上げます。

1 学力調査の結果

【国語】 平均正答率 63%

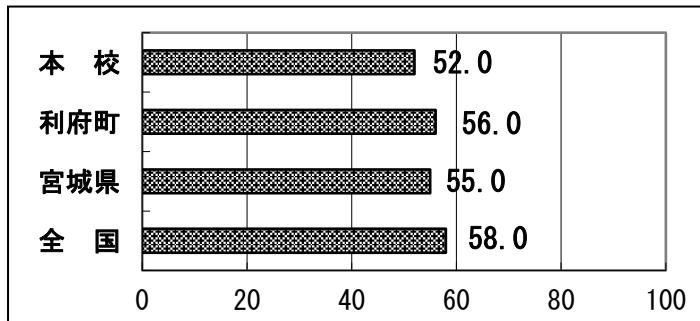


- ・全国の平均正答率を3.8pt 下回りました。
- ・評価の観点別に見ると「知識・技能」では-6.3pt、「思考・判断・表現」では+3.0ptとなりました。
- ・学習指導要領の内容別に見ると、「知識及び技能」に関する「言葉の特徴や使い方に関する事項」では-6.8pt、「情報の扱い方に関する事項」では-13.7pt、「我が国の言語文化に関する事項」では+1.9ptとなりました。また、「思考力、判断力、表現力等」に関する、「話すこと・聞くこと」では-0.1pt、「書くこと」では+0.6pt、「読むこと」では-7.8ptとなりました。

具体的な学習状況 (◎ よくできていた点 ● 課題として挙げられる点)

- ◎目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題で、全国平均を3.8pt 上回りました。【問題1の一】
- ◎目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題で、全国平均を4.9pt 上回りました。【問題2の三】
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題で、全国平均を13.7pt 下回りました。【問題1の二】
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題で課題が見られました。【問題2の四(ア) (イ)】

【算数】 平均正答率 52%

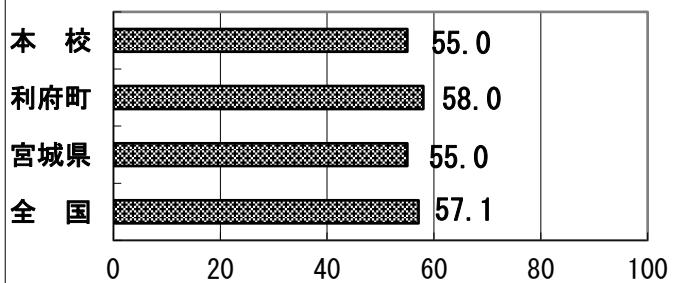


- 全国の平均正答率を6.0pt 下回りました。
- ・評価の観点別に見ると、「知識・技能」では-5.8pt、「思考・判断・表現」でも-5.8ptとなるなど、課題が見られます。
- ・学習指導要領の領域別に見ると、「数と計算」の領域では-7.3pt、「図形」の領域では-5.9pt、「測定」の領域では-4.8pt、「変化と関係」の領域では-6.0pt、「データの活用」の領域では、-5.5ptとなりました。

具体的な学習状況 (◎ よくできていた点 ● 課題として挙げられる点)

- ◎はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題で、全国平均を2.7pt 上回りました。【問題4の(3)】
- 分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかをみる問題で、全国平均を16.8pt 下回りました。【問題3の(3)】
- 異分母の分数の加法の計算をすることができるかをみる問題で、全国平均を11.2pt 下回りました。【問題3の(4)】
- 問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかを見る問題で、全国平均を12.3pt 下回りました。【問題4の(2)】

【理 科】 平均正答率 55%



○全国の平均正答率を 2.1pt 下回りました。

- ・評価の観点別に見ると、「知識・技能」では-1.2pt、「思考・判断・表現」では-2.4ptとなりました。
- ・学習指導要領の領域別に見ると、「エネルギー」を柱とする領域では-5.6pt、「粒子」を柱とする領域では-3.4pt、「生命」を柱とする領域では+3.9pt、「地球」を柱とする領域では-2.4ptとなりました。

具体的な学習状況 (◎ よくできていた点 ● 課題として挙げられる点)

- ◎ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題で、全国平均を 8.2pt 上回りました。【問題3の(1)】
- ◎顕微鏡を操作し、適切な像にするための技術が身に付いているかどうかをみる問題で、全国平均を 5.7pt 上回りました。【問題3の(2)】
- 直列つなぎに関する知識をみる問題で、全国平均を 14.3pt 下回りました。【問題2の(4)】
- 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題で、全国平均を 16.4pt 下回りました。【問題4の(3)のカ】

2 今後の取組について

(1) 国 語

- 文章を作成する際に、キーワードを関係図にまとめて整理する活動に引き続き取り組んでいきます。
- 学習した漢字は文脈の中で使うことができるよう、日頃から練習を積み重ねさせていきます。

(2) 算 数

- スキルタイムを活用し、分数の計算練習や、通分・約分の基礎となる倍数や約数の復習を行います。
- 学習時間に意図的に自分の考えを書く場面や、互いに話したり聞いたりする場面を設定し、筋道を立てて考え、学び合いの姿勢と相手に説明する力を向上させていきます。

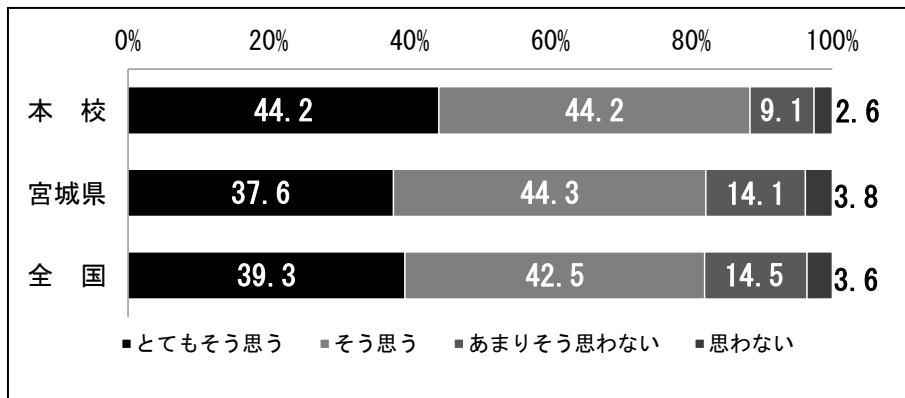
(3) 理 科

- 中学年の学習内容を振り返り、実験や観察などの体験に基づいた知識の定着を進めています。
- 問題解決型の授業を進める際に、一人一人の児童が自分の考える仮説を文章に表現させ、他の児童の考え方と練り合い修正などを加えながら、思考力や表現力を伸ばしていきます。

3 学習状況調査の結果

(1) よい傾向が見られる項目

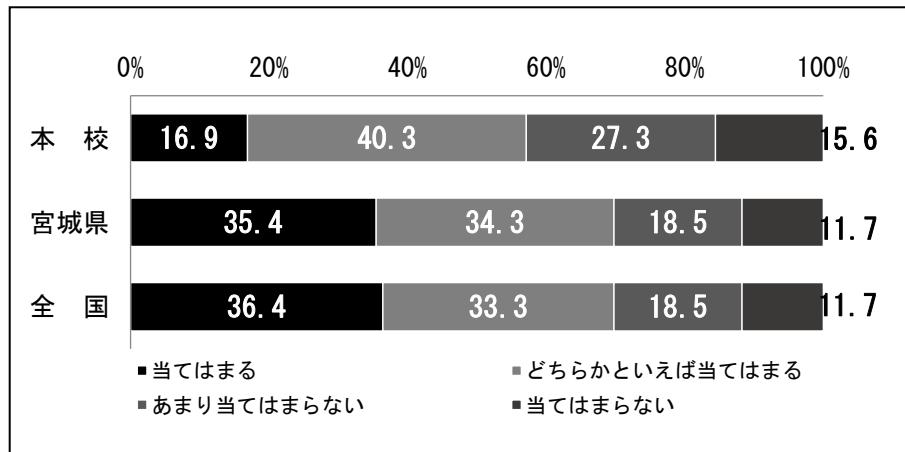
あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成することができると思いますか。



全国や県の平均と比較すると、ICT 機器で文章を作成することができると感じている児童が多くなっています。また、プレゼンテーションを作成したり、調べ学習をしたりする際の ICT 機器の活用について、全国平均よりも高い結果となりました。引き続き、ICT 機器を効果的に活用できるよう支援していきます。

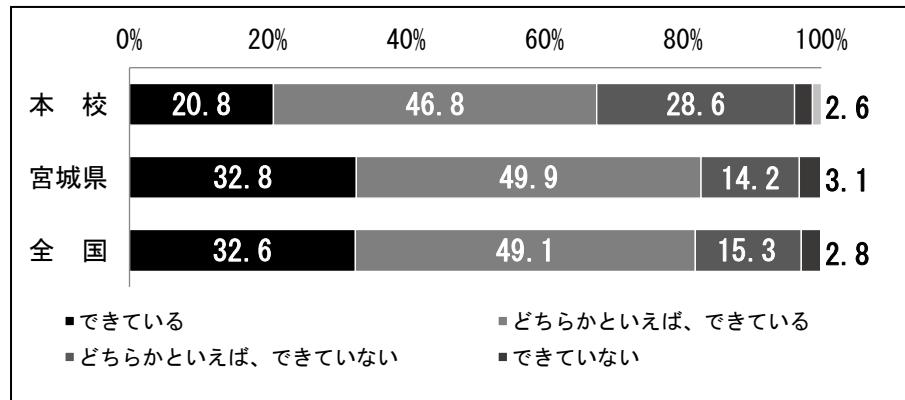
(2) 改善が必要と思われる項目

読書が好きですか。



肯定的に捉えた児童の割合が、全国より 12.5pt 低くなっています。読書が好きな児童ほど、学力が高くなる傾向があるとされています。朝学習の時間や授業において、読書の時間を確保したり、図書室を積極的に利用し、児童が主体的に本を選ぶことができる機会を増やしたりしていきます。ご家庭でも、お子様が読む本と一緒に選んでいただくななど、ご協力をお願いします。

分からぬことやくわしく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



肯定的に捉えた児童の割合が、全国より 14.1pt 低くなっています。自分で学び方を考えたり、工夫したりしながら学習へ取り組むことへの苦手意識がうかがえます。今後、各教科の授業において、子供たちが、自分で学び方を考え、主体的に学習に取り組むことができる活動を多く取り入れていきます。